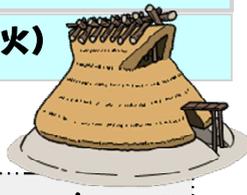




藤枝市立葉梨西北小学校



出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年9月5日(火)

「14人全員が火を起こすことができるとても良かったです。火がついたときの子どもたちの顔が、とても素晴らしかったです。」

藤枝市立葉梨西北小学校の6年生14人が、大昔の人々の生活を体験することを通して、歴史に興味をもつことを目的に、土器分類と火起こしの2つの体験を行いました。

土器の分類体験



先に、縄文土器・弥生土器・須恵器の3種類の完形土器を触って、質感や重さ、文様などを全員が確かめました。およそ5千年前や2千年前の土器を手にして、緊張しながらもうれしそうでした。

「本物に触ることができて、すごいと思った。」

次に、3種類の土器片を分けました。すでに古代の歴史は学習しているため、縄文土器は比較的簡単に分けることができました。

弥生土器と須恵器の違いがはっきりせず、苦勞していましたが、班員と意見交換しながら協力して分けることができました。

「班の人と協力して分けることがとても楽しかった。」



火起こし体験



火起こしをテレビで観ていた子どもたちが、実際に舞ぎり法で火起こしができるとあって、とても喜んでいました。最初に、もみぎり法や弓ぎり法等を紹介し、舞ぎり法の説明をしました。その後、班に分かれて準備。

「火を起こすことの大変さが分かって良かった。そして、班で協力してやることが良かった。」



「テレビで観てから、ずっとやりたくて、実際にできたので、とてもうれしかった。」

弾み車を調子よく回し初め、火種を作り、ロングフー。時間的に余裕があったので、14人全員が火を起こすことができ、みんな大満足！



先生方の感想

「ビデオや資料集、教科書ではできない体験をすることにより、歴史により興味をもてました。土器の種類を実際に触れて理解したり、火を起こすことを通して火の大切さを再認識したりする良い機会となりました。土器分類、火起こし体験とも、小学生にわかりやすく説明していただき、子どもたちが楽しく安心して活動することができました。14人全員が火を起こすことができるとても良かったです。火がついたときの子どもたちの顔が、とても素晴らしかったです。ありがとうございました。」

